

私は医者だ、しかし COVID が、医学研究に対する私の信念を打ち壊した

私は、私の読むどんなことも信じられず、主流事実の何事も受け入れることができない

By Malcolm Kendrick | RT
May 29, 2021

議論を打ち切り、窒息させることを決定する者たちは——自分が何をしていると考えていようと——実は、科学の大義の対する逆賊である。

<https://www.infowars.com/posts/im-a-doctor-but-covids-broken-my-faith-in-medical-research-i-cant-believe-anything-i-read-or-accept-any-mainstream-facts/>

ウィルスやワクチン接種について、一般に流布する正統派に対して、代替案を持ち出す者は、悪口を言われ、脅迫され、取り消しを求められる。これは科学や、機能する民主主義のやることではない。

私はしばらく物を書いていない——これは詫びる。その代わりに、私は私の書いたものについて、2通の訴状を書いており、これは英一般医療評議会 (GMC) に宛てたものである。また、国民保健サービス (英、NHS) からの苦情と、他の医者たちからの2本の怒った電話を受けており、これは、現行ワクチンについては、どんなネガティブな批評も行ってはならないという内容だった。

外国人や、このような問題を知らない方々に言っておくと、イギリスの医者たちは、多くの異なった組織に支配されており、その組織の多くは、判断を下し、いろんな制裁を行うことができると考えている。その最も恐ろしく、いわばスペインの教会大審問にあたるものは GMC で、それはあなたを医者の登録から抹殺し、医者の仕事をできなくする。彼らは大きな権力を持ち、厳しく目を光らせている。

これより先に、私は2人のジャーナリストと、突然立ち上がった、2つの「ファクト・チェック」組織からも電話をもらっており、攻撃されている。この組織は Covid-19 に関するどんな情報についても、あなたの有罪か無罪かを定めることができる。もちろん誰も、フ

アクト・チェッカーをチェックできる者はいない。彼らは、自分で自分を任命した「真理」の守護者である。誰が管理者を管理するのか？（ラテン語の諺）？

実を言えば、彼らは私を脅したのではなく、ただ大いに困らせたのである。問題は、彼らが本当にあなたを追い落とそうとしたとき、あなたが組織から消されることである。たとえば、アメリカの代替医療の主張者、ドクター Joseph Mercola は今、大急ぎで、自分のサイトから情報を移動させねばならなくなっている。一度、インターネットから消されると、誰でも、あなたが書くものを読んだり、話すことを聞いたりすることが難しくなる。もしあなたがこれを、生計の手段としているなら、これは大きな問題になる。

<https://www.mercola.com/>

私は2年ほど前に、ウィキペディアから削除された。しかし私は Rational W に、悪口を書くページを2つ持っており、これがその代わりをなしている。誰が編集し、管理しているかは、誰にも言わない。 https://rationalwiki.org/wiki/Malcolm_Kendrick

私は、私をウィキペディアから追放し、Rational W に侮辱記事を書くことを決めたのは、絶対肉食主義者 (vegan) の極端な派閥ではないかと思う。私がそう言うのは、私の知っている大勢の他の人々で、diet-heart 仮説に批判的な人々、つまり動物性食品を食べても全く健康だという人々もまた、ほとんど同じ時期に、ウィキペディアから追放されているからである。

私はウィキペディアが出発したとき、むしろその考えが気に入っていた。しかし、それはその後、若干の、狂信者とも言える、彼ら自身のアジェンダをもつ人々に占領された。これは、私が特に興味を持っている、いくつかの科学の領域で、特に当てはまることだった。つまり食餌療法、心臓病、そして Covid-19 である。

悔しいことには、もしウィキペディアがあなたを追い出すと決定したら、あなたに出来ることは何もない。訴えることもできない。ウィキペディアを編集する権力を握った者たちは、誰にも責任を負わない。彼らは、絶対的権力をもって、彼らの小さな帝国を支配する。彼らはもちろん、科学とはどんな関係も、決して持つてはならない類いの者たちだ。彼らの精神は、もう何年も昔から出来上がっている。彼らはアジェンダをもっており、反科学であり、反科学者軍団である。

科学の主たる目的は、問いを発し、問いただすことである。考えを最大限の吟味にさらしだすことである。議論の打ち切りを言い渡し、窒息させることを選ぶ者たちは——彼らが自分で何をやっていると考えようと——実は、科学の大原則に対する反逆者たちである。科学の発達の首を絞め、科学を暗殺する者たちだ。

これは彼らだけのことではない。そして事態は、過去1, 2年の間に大きく悪化した。科学は、Covid-19 発生の際に、恐ろしい戦闘状態を呈してきた。ただ私は、広く信じられた科学的仮説に異議を唱えることは、難しいことを前から知っていた。

自分の見解を公表する試みだけでも、それは悪夢である。ピア・レビュー（査読）の制度は、革新的考え方に対して彼らが用いる、多くの兵器の1つになっている。現行観念の専門家たちは、この新しい考え方をどう思うのだろうか？ それは彼らにとって、自分が過去30年の間、研究し教えてきたすべて、彼らの名声の土台となったすべてを、覆そうとするものである。…彼らがそれを気に入り、認めるかどうか疑問である。

専門家はたしかに、変化に対して恐ろしい障壁を作っている。証拠に基づく医学の創建者である David Sackett は、その論文でこう言っている。「専門家であることの罪と、その贖罪の提案」：——

<https://www.bmj.com/bmj/section-pdf/896890?path=/bmj/350/8009/Obituaries.full.pdf>

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC1118019/>

「… そこで私が思い当たったことは、私のような専門家は、科学の進歩を妨げ、若者たちの害となる、2つの罪を犯していることだった。第一に、我々の見解に威信を与えることは、彼らが単独でもつ科学的根拠による価値より、大きな説得力を与えることになる。敬意によるか、恐怖か尊敬によるかは知らず、他の者は「専門家」に逆らえず、真理に向かって突き進むことは、専門家の前では勢い殺される。

「専門家であることの2つ目の罪は、研究助成金の申請と、現行の専門的合意に挑戦する原稿に対して犯される。査読者は、新しい証拠や考えを、受け入れるか拒否するか、避けられない誘惑に直面するが、それは、論文の科学的長所に基づいてではなく、こうした問題に専門家が取る公的な立場に、それらがどれくらい合っているか、合っていないかによって決まる。」

では彼の問題解決はどうか——

「この世界には、科学の進歩にとって健全とは言えない、専門家がまだ大量に存在する。彼らの自発的な引退は、1980年と比べて、2000年になっても変わっていないようだから、私はこの提案を繰り返して、専門家の引退は、彼らの学問的階級昇進と、終身在職権（tenure）成立の時点で、強制されるようにすることを求める。」

専門的学術は偉大である。「専門家」というのは完全に別物である。現在、間違いなく数名の恐るべき専門家がいて、Covid-19 を相手に権力を振るっている。イギリスでは、選りすぐりの SAGE 委員会が、何らかの理由で選ばれて君臨している。彼らは恐るべき権力を持ち、どんなことにも決して同意しない。アメリカでは、ファウチと CDC がいて、同じ振舞いをしている。(訳者注：この「SAGE 委員会」については、元ファイザー副社長 Dr. Yeadon の批判的コメントがある：<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/210416.pdf>)

その背景には、世界保健機関 (WHO) があり、彼らは何も言わなくても、どちらの方向に風が吹いているかを、あなたに教えてくれる。彼らは「これらは私の原則です。そして、もしあなたが、それを気に入らないと言うなら、私は別のを持っていますよ」と言う。「しかし、我々 WHO が明かにしたいことは、Covid-19 のどんなことも、中国には全く関係がないということです。どうです？ もう少しお金を出してもらえませんか？」

とにかく、このウィルスやこの科学は、いったいどうなっているのだろうか？

私の頭の中では、Covid-19 は、医学的な科学研究に対する私の信頼や尊敬の、最後のひとかけらをも失わせてしまった。私は、私の読むどんなものも信ずることができない。私は、いかなる主流科学の事実も数字も、受け入れることができない。

我々は、こんなナンセンスを聞かされている。たとえばワクチン接種は、病気そのものに罹ったより、もっと効果的に、Covid-19 に対して我々を保護してくれるという「事実」？…これは全くのナンセンスである。

我々は、ウィルスは、汚染された表面に触れるだけで広がるのだ、と言われた…本当かい？ 我々は、それはエアロゾルでなく、しずくを通じて広がると言われた。これは最も完全な馬鹿話だ。我々は、あらゆる人間が、マスクをしなければならないと言われた。我々は、症状を持たない人々によって、それは移されると言われた。これは何の根拠もない。その類いのものはいくらでもある。

しかし誰も、こうしたナンセンスを、わずかにでも気にしていないように見える。大衆はそれを温存し、現行の物語に疑問を投げる者には、食ってかかっているかのようである。

(以下、数十行省略)

[訳者 Greatchain より]

結論でこの人は、「我々はかつての暗黒時代に返ったようだ」と言っている。まったくその通りである。こういう正確な分析と洞察を、我々は聞きたかった。学術としての医学も、職業として個々の医師も、体制の枠を踏み出すことを許さぬ、いわば警察国家に捕らえられている。医療マフィアともいうべき者たちの、見えない大きな網がそこにある。これは緩やかな規制に見える。かつての共産主義のように、突如、夜中に現れた官憲に連行されることはない。しかし彼らは、もっと恐ろしい処罰に直面している。医師免許停止と、もう一つは、インターネットによる発言の停止である。これは自由契約によって生計を立てる人々で、反体制の人を締め上げるだろう

私の近所のお医者さんは、おそらくそれを知っているから、ワクチン接種の是非を客から相談されれば、反対はしないだろう。彼らはおそらく監視の目を感じている。しかし事情を知っている医者の中で、断固反対する人たちも何人かはいるであろう。我々はそういう人々の勇気を頼りに生きている。彼らは我々が「暗黒時代」に生きていることを知っている。我々は、子どもたちが犠牲になっても、それを無視する時代に生きている。FDAの「ファクトシート」を無視する時代に生きている。ワクチン作戦によって子供が犠牲になるということは、この特定の疫病によって始まったことではない。

「ワクチンが自閉症を起こすと証明する科学者の証拠を、裁判所が押収」

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180601.pdf>

「反ワクチンの日本が、世界最低の子ども死亡率、最高の平均余命」

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180809.pdf>

「シリアの子どもたち、大規模な国連のワクチン接種運動後、死に始める」

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180507.pdf>

「研究調査：自閉症はワクチン接種率の高い地域ほど流行」

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180506.pdf>

これらは少なくとも、世界に出回るワクチンというものが、どんな場合でも、必ず信用できるものではないということの、証拠にはなるであろう。